

栃木県作業療法学会誌

Vol.3 No.1
2012

地域への展開
作業療法士だからできること

特別講演

● 地域への展開

～地域における連携と、作業療法士の役割～

船山道隆 (足利赤十字病院 精神神経科部長)

渡邊忠義 (あさかホスピタル 作業療法士)

体験型学習

参加企業： イワツキ株式会社
(有)コス・インターナショナル
株式会社ハートライフ
株式会社オーエックスエンジニアリング
酒井医療株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社廣川書店
株式会社コーポレーションパールスター

事例検討 □ 述発表

一般演題 □ 述発表

第3回 栃木県作業療法学会

地域への展開 作業療法士だからできること

会 期:平成 24 年 10 月 28 日(日)

会 場:マロニエ医療福祉専門学校

主 催:一般社団法人 栃木県作業療法士会

後 援:栃木県

栃木市

一般社団法人 栃木県理学療法士会

栃木県言語聴覚士会

目 次

●学会長挨拶	1
●会場案内図	2
●大会スケジュール	4
●特別講演	
○地域への展開	9
●一般演題1	
○身体	15
●一般演題2	
○身体・老年期	20
●一般演題3	
○精神	24
●事例検討報告会1	
○身体・精神	29
●事例検討報告会2	
○身障・老年期	41
●体験型学習	
○参加企業紹介	51
●組織図	56

学会長挨拶

第3回栃木県作業療法学会
学会長 湯沢 正明

第3回栃木県作業療法学会はブロック化後、初の県南地区での開催となります。

学会のテーマは「地域への展開 ～作業療法士だからできること～」といたしました。現在、日本は世界でも類を見ない急速な超高齢化社会に突入しています。経済的にもより効率的で効果的なサービスの提供を必要とされてきています。そのような社会状況にあって、作業療法は効果的なサービスを提供できる職種の1つだといえます。

さらに作業療法は、人々の健康の促進と生活再建に専門性を活かすことができ、援助を必要としている人々の思いを大切にしながらその能力を活用することができる重要な職種でもあると考えています。

また、今年度の診療報酬改定の中で、他職種との連携がさらに求められることになりました。地域で生活されている様々な人々を支える職種の中にあつて、作業療法士として対象となる方の生活再建のために尽力すること、その手段の一つとして発言することはより重要であると考えます。

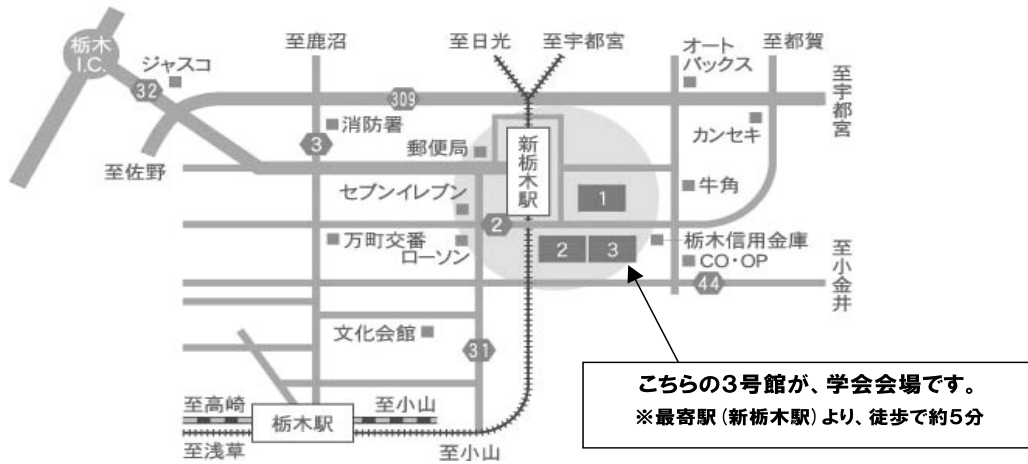
臨床の中にあつて対象となる方から教えられることは多数ありました。初めて担当した頸髄損傷の方と行った文化刺繍は道具を作る事、作品が完成するように手伝ったこと、刺繍への思いを語っていただきながら一緒に寄り添うように過ごしていたことを思い出します。その人の思いをかなえるためには、同僚のリハスタッフ、看護師、相談員などの協力を得ての時間確保が不可欠で、多くの支援を受けながら刺繍を行うことがその人にとって多くの意味を持つようになりました。効率的とは言えませんでした。対象者と周りの人の心が動く為には作業療法は重要であるという経験をしました。

このような体験を通して改めて、「作業療法士だからできること」を見つけていくこと、想像していくことは大切であると思います。そして、現在行っている仕事をさらに充実させていくために、日頃の成果を発表したり意見交換したりできる学会での研鑽は非常に重要であると考えます。

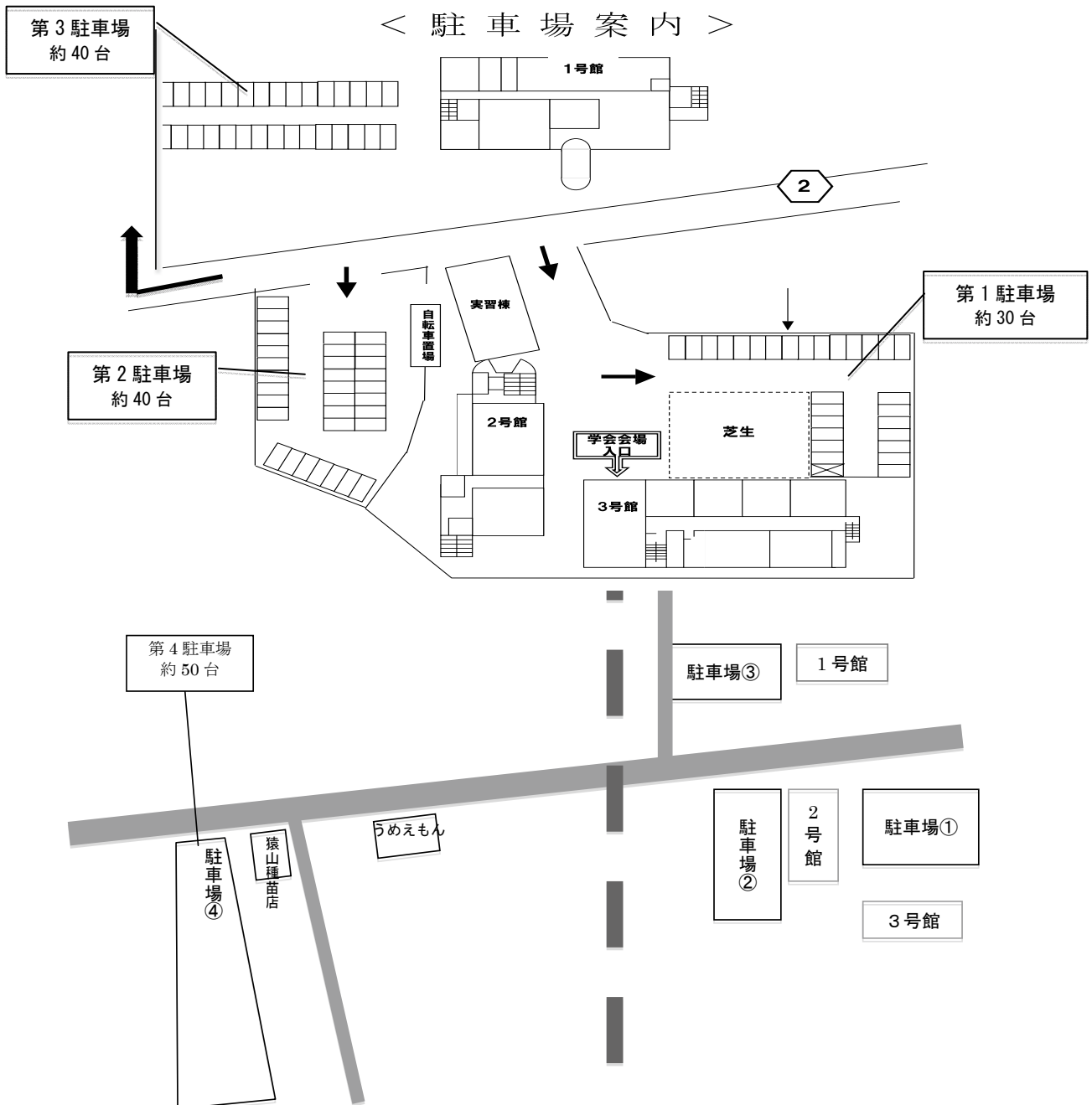
今回の学会は、士会員一人ひとりの積極的な参加を促すことを中心に考え、一般演題、事例報告、体験型学習に重きを置いた構成としています。～作業療法士だからできること～、をより多くの士会員の方からご報告いただき、活発な質疑応答が行われることを期待し、挨拶とさせていただきます。

会場案内図

< 学校周辺地図 >



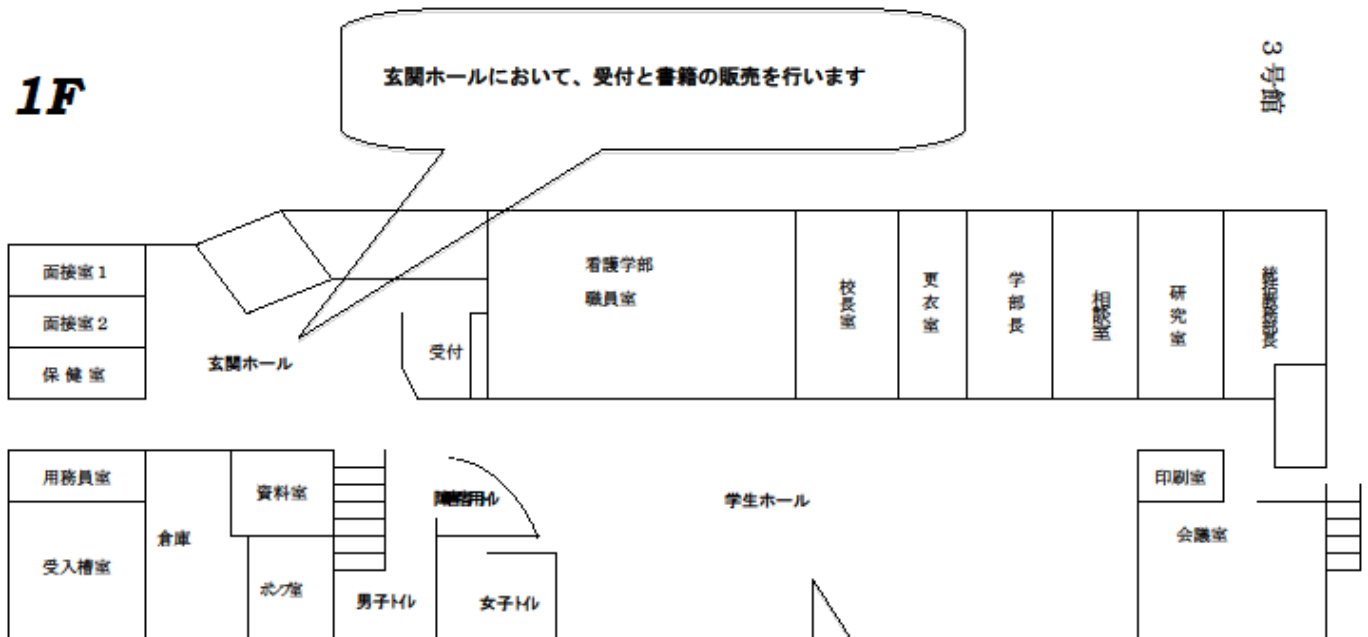
< 駐車場案内 >



学会会場

1F

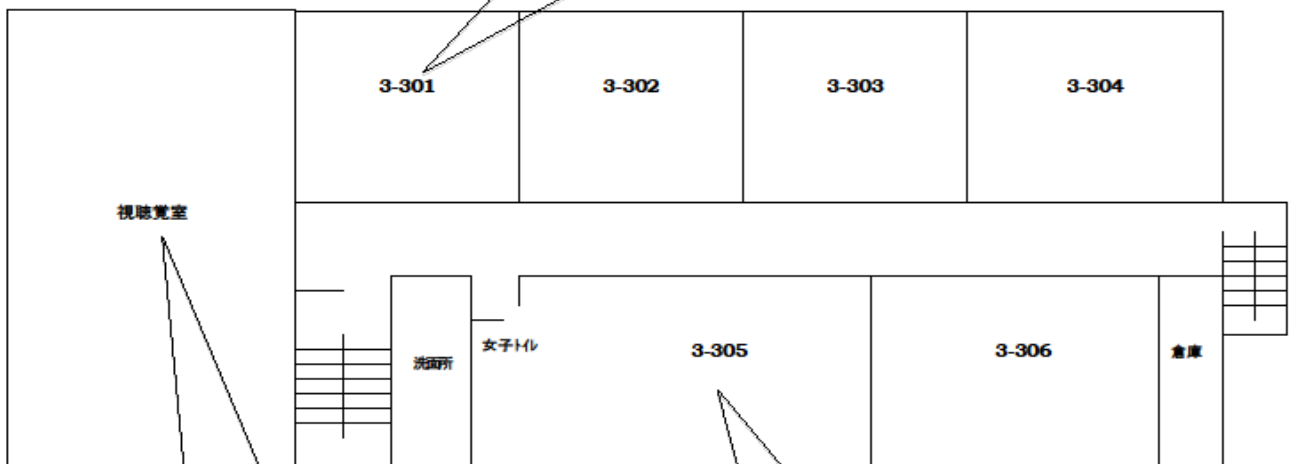
3号館



学生ホールでの飲食は可能です

3F

体験型学習（機器展示）



・特別講演
・一般演題 1、2
・事例検討報告会 1

・一般演題 3
・事例検討報告会 2

大会スケジュール

	1F 玄関ホール		3F 視聴覚教室	3F 305教室	3F 301教室		
8:50		受付					
9:20～9:30	書籍販売			開会式		体験型学習	
9:30～10:30				一般演題 1			
10:30～10:40				休憩			
10:40～11:40				一般演題 2			一般演題 3
11:40～12:10				休憩			
12:10～13:40				特別講演			
13:40～13:50	書籍販売			休憩		体験型学習	
13:50～15:50				事例検討報告会 1			事例検討報告会 2
15:50～16:00				自助具コンテスト表彰式			
16:00～			閉会式				

※一般演題は、途中入退室可

※事例検討報告会は生涯教育受講者は途中入退室不可

学会参加に関する注意事項

- 敷地内、全面禁煙となっております。

敷地内（駐車場含む）での喫煙はご遠慮ください。

- ゴミは設置しているゴミ箱にお捨てください。

駐車場内などでのポイ捨てはご遠慮ください。

- 駐車場内における事故等につきまして一切責任は負いません。

駐車場内では最徐行で走行ください。

その他

- 休憩時間中の視聴覚室や教室での飲食は可能です。

- 学校入口横の喫茶店「ほっとたいむ」も営業しております。

こちらの喫茶店では、喫煙可能となっております。

特別講演

13 : 45 ~ 15 : 15

視聴覚室

司会（コーディネート）：遠藤 真史（地域生活支援センター ゆずり葉）

○地域への展開 —地域における連携と、作業療法士の役割—

足利赤十字病院 精神神経科部長 船山 道隆
あさかホスピタル 作業療法士 渡邊 忠義

一回目気分落ち込み後（53～65 病日）：本人の訴えにより、折り紙は中止とする。疲労の訴えもあり、休憩をこまめにとる。夫に対して、担当 OT・ST と本人同席の場で外泊促しを行う。夫は外泊に対して、「いいんじゃないですか」と。夫との会話中本人は話をせず、表情は暗い。62 病日で外泊実施。外泊時は、入浴・洗濯・掃除を一人で実施。本人、夫ともに問題はなかったと話す。夫から本人への外泊の感想はなかった。夫より「全て完璧に行えるようになってから退院して欲しい」と要望があり、本人は「家の事が心配で早く帰りたい」と話す。OTR から本人に、夫は問題無さそうだと伝えていたと伝えるも「どうだか」と返答。

二回目気分落ち込み（63～73 病日；66 病日気分落ち込み）：大浴場自立に向けて入浴評価を実施。66 病日に OTR と二人で行う予定だったが、直前に他患も一緒に入浴すると看護師が伝えると「話が違う」と拒否。「事前に言って欲しかった。看護師が謝ってくれればいい。私が我慢すればいい」と。笑顔みられなくなり、会話はせず。68 病日降圧剤減量。69 病日に担当以外の OTR とのリハ中に過呼吸となる。本人は「薬が変わったから」と話す。

二回目気分落ち込み後（74～80 病日）：再度身体的・精神的負荷量を減らして介入実施。入浴の件を症例が気にしている事を看護師に話し、看護師から入浴に関して説明してもらうように話す。夫に対して現状を説明し、本人同席で夫からも退院しても大丈夫との話をもらう。Dr. にも現状を説明し、退院時期を決定するよう交渉した。

7. 結果

看護師からの説明や、夫への状況説明後、気分の落ち込みはみられず、冗談や笑顔が見られるようになった。退院日も 90 病日に決定となり、「ほんとに大丈夫かな」との発言あるも、表情は明るい。

身体機能面：Br. stage VI-VI-VI。STEF 右 100 点、左 99 点。両上下肢 MMT5。連続立位作業時間は 2 時間以上可能。

高次脳機能面：WAIS III 言語性 IQ116、動作性 IQ105（処理速度 IQ102）。コース立方体テスト IQ105。**活動・参加面**：病棟では、FIM122（ADL 全自立）。歩行は屋内独歩、屋外 T-cane にて自立。掃除・洗濯・調理は 1 人でできる。

8. 考察

本症例において気分の落ち込みを 2 度経験した。本人は疲れがたまっていた、薬が変わったと説明していたが、降圧剤の減量で生じるとは考えにくく、不安やストレスを隠すために上記のような説明をしていたと考えた。

夫が忙しくて外泊は出来ないとの発言や、退院後自分の状態を夫がどのように思っているのかを気にしているが聞けていないこと等から、症例は夫に対して遠慮している可能性があると考え。そのため、退院後夫が受け入れてくれるのか不安を抱えていたと考える。それに加え、病前・退院後の生活について聞かれることを拒む点や、面会時に扉を閉めてしまう点から、他者に対して心を開く事が苦手な性格であると考えられ、不安を他者に相談できず、夫にも聞くことが出来なかった為、不安が増強し、負荷量の増加やストレスにより気分の落ち込みにつながったと予測される。そのため、外泊は問題なかったと夫が言っていたと伝えても本気にしていなかった点から、リハスタッフの発言に対して疑い深い部分があると推測し、夫の考えを直接本人が聞けるように、夫・本人同席の場で現状や退院後の話を言い、医師から退院日決定を行うよう促した。結果、3 度目の気分の落ち込みはみられず退院となったと考える。

本症例の場合、ADL・家事動作ともに概ね自立レベルであり、退院後の生活への不安は少ないと判断してしまい、夫と本人の関係性や、症例の性格を考察出来ておらず、退院後の生活に対して強い不安を抱えているとは考えていなかった。また、症例の能力のみに囚われ、夫への本人の状態の説明が不足し、夫から本人に退院後について話をしているのかといった確認を怠ってしまった。能力の高さに関係なく、本人の性格や家族関係について把握し、早期から家族へ状況の説明や受け入れの有無について本人同席の場で話をすべきであったと考える。

体験型学習（協力企業）

酒井医療株式会社

大和ハウス工業株式会社

（有）コス・インターナショナル

株式会社はーとらいふ

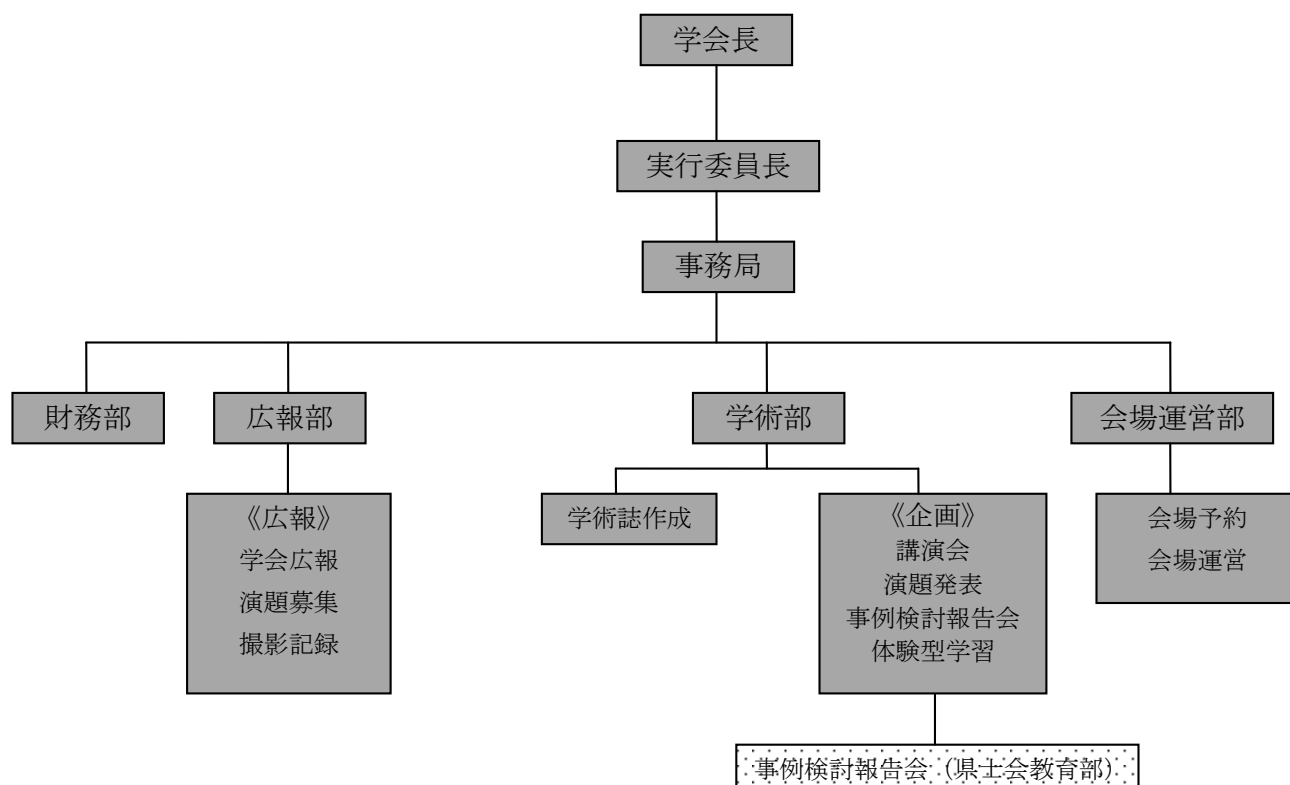
株式会社オーエックスエンジニアリング

イワツキ株式会社

株式会社廣川書店

株式会社コーポレーションパールスター

栃木県作業療法学会組織図



第3回 栃木県作業療法学会 役員名簿

	氏名	所属
学会長	湯沢 正明	介護老人保健施設 さくらの里
実行委員長	林 訓志	マロニエ医療福祉専門学校
事務局	緒方 輝 野澤 優希	マロニエ医療福祉専門学校 ひのきの杜
財務部	秋野 玲奈 牡鹿 実	自治医科大学附属病院 自治医科大学附属病院
広報部	和地 秀章	佐野厚生総合病院
学術部	桑野 亜沙美 白石 淳史	両毛病院 リハビリテーション花の舎病院
会場運営部	松川 勇 柁木 健介	足利赤十字病院 朝日病院

第3回 栃木県作業療法学術誌

平成24年10月1日発行

主 催 / 一般社団法人 栃木県作業療法士会

学 会 長 / 湯沢 正明

事 務 局 / 〒328-0027

栃木県栃木市今泉町 2-6-22

マロニエ医療福祉専門学校 作業療法学科内

第3回栃木県作業療法学会 事務局

TEL 0282-27-8425

FAX 0282-27-8429